

館の使命	房総のむらは、伝統的なくらしや道具、ものづくりの技を保存・継承し、新たな価値を見出し、展示や体験を通して歴史や文化を学ぶ博物館を目指します。歴史や自然を愛する心を育み、伝統文化の理解や学習、地域づくりを支援します。			
評価項目	11 人事育成 ②教員等研修			
項目概要	教職員を対象とした博物館研修事業が使命に即したものになっているか。			
評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	・本事業を通してより多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらうとともに、教職員の意見を参考に、より充実した体験内容を企画し、実施する。	・今回の研修事業を通して、より多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらうとともに、教職員の意見を具体的に聞く場を設定できた。	【加藤】 ・受講した教職員との意見交換も充実して、館の活用促進を図る良い企画である。さらに、年間、全県での利用促進のため、他の研修会等を活用するなど、事業広報の拡大をお願いしたい。 【戸枝】 ・この研修会は「むら」の学校団体利用促進と、「むら」の特徴である体験型博物館の効果的利用を行うため必要な事業で充実、継続してください。利用校統計をみてもH23→24と利用が増えている。研修会や教員異動に伴う口コミによる周知などの効果が出ていると考えられる。 ・体験(飾り結び)を始める前に「飾り結び」についての解説があり勉強になりました。(子ども達にはもう少し分かり易い説明がなされるのでしょうか)
	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	・学校の団体体験を通して、房総の伝統的なくらしや道具、ものづくりの技に興味・関心をもってもらう。	・今回の研修事業を通して、より多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらうとともに、教職員の意見を具体的に聞く場を設定できた。	
	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	・展示されている実物資料などを見たり直接触れたりして、児童生徒の理解を深められるようにする。	・今回の研修事業を通して、より多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらうとともに、教職員の意見を具体的に聞く場を設定できた。	
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	・教職員が児童、生徒の体験内容を追体験する場を設定している。	・教師に児童の学校団体体験を追体験してもらい、房総の伝統的なくらしや道具、ものづくりの技に触れてもらった。	【加藤】 児童、生徒の体験内容と同様のメニューが追体験でき、事業の狙いが実感をもって良く伝わっている。ボランティア、指導員の能力も高く、実施効果に期待を持たせられている。 【戸枝】 ・体験メニューの具体的な希望は少なかったように感じたが、研修会参加校の利用状況について共有できたことは各校参考になったのではないかと。 ・学校が作成する(しおり)等を一部提供してもらい、学年別利用の実態と学習方法などを各事業の参考にすることも検討してください。
	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	・学校の意見を事業に反映させるために、研修内容に意見交換の場を設定している。	・また、展示されている建物、実物資料などを見たり直接触れたりしながら解説会を行った。教師から児童・生徒への動機付けができる活動となった。	
③満足度	・参加者は、満足してくれたか (児童生徒の体験内容はカリキュラムに沿っている) (効果的に意見交換ができる場の設定がなされている)	・定員(各回40名)を満たしている	・2回で39名の参加で、他の教職員研修会の日程と重なったこともあり、定員は満たせなかった。研修会の日程を決定するにあたっては十分な事前の情報確認が必要。	【戸枝】 ・開催日が他の研修と重なり、参加者が少なかったが熱心であり、積極的であった。
		研修事業を通して、「房総のむらの学校団体体験を利用しようと思った」、体験内容は「概ね期待に沿ったものであった」の回答数が80%以上(アンケートによる)。	・参加者のほとんどが利用を前提に参加していたが、体験内容の説明、施設案内等、参加者の期待に応えることができた。「研修内容が概ね期待に沿ったものであった」以上は、97.2%を占めた。	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運営	・教職員を対象とした博物館研修事業が館利用の促進を図るものになっているか。	・教職員の夏休み研修とタイアップさせた事業として行っている。	・教職員の夏休み研修とタイアップさせた事業であったが、他の研修日程との調整が不十分だった。	【加藤】 ・研修会の構成、内容とも充実して、事業の目的を十分に達している。今後は、利用増進のためネット対応も視野に入れ、予め利用者がイメージできるように申し込みの視覚化と簡易化を図っていただきたい。 【戸枝】 ・ほぼ一日の研修会であったが、室内の説明、屋外展示の見学とも進行はスムーズであり、職員の体験メニューの熟知、またボランティアの解説力も高く、連携も良い。 ・アンケートが Ⅰ研修会参加者用(個人)と、ロ学校用とが用意されており、多方面からの情報収集に努めていると思う。 ・学校用の設問1-③については、どのような理由で利用できないかを尋ねてもよいかと思えます。(③の回答があるのでしょうか)
		・授業に結びつけられる内容や工夫・ヒントを提示できるようにする。	・授業に結びつけられる内容や工夫・ヒントを提示できた。	
	・学校が求めている体験内容や体験時間となる効率的な運営がなされているか。	・研修後のフォローアップ体制ができています。	・工夫を凝らしたアンケート調査として、児童と教師それぞれの立場からアンケートを作成し実施した。	
		・回答率及び分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査が実施されている。	・研修後のフォローアップ体制として、事前の申込と相談等には、具体的かつ丁寧な対応をしているが、申込みが複雑という指摘もあった。	

総合評価	
段階評価	所見・指摘事項
4.0 (加藤・戸枝)	<p>【加藤】 ・教職員が事業の説明を受けるだけでなく、追体験によって児童、生徒の目線に立って理解ができる、館の使命を果たす良い事業である。さらに様々な機会を捉え、理解者の拡大に努めていただきたい。</p> <p>【戸枝】 ・参加者名簿備考欄に、既来館学年、来館回数を設けると、まだ来館しない学校への参考になると思えます。 ・利用の少ない地域には、研修会とはべつに出前説明会(地域の教員集会等で)なども検討してください。 ・学校で利用は、家族連れや他のグループでの利用の窓口、切っ掛けづくりでもあります。 ・今後も、研修会の充実、継続は必要です。入館者増にも連動すると思えます。</p>

評価の判定基準 4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき

対応
<p>1. ②事業内容: 所見・指摘事項: 戸枝委員欄 ・学校が作成する「しおり」等の提供依頼について → 新年度から提供をお願いし、当館としての学習資料作り等の工夫改善に努めていきます。</p> <p>2. ④運営: 所見・指摘事項: 加藤委員欄 ・利用増進のためのネット対応として、利用者がイメージできるように申し込みの視覚化・簡易化を図ってほしいという点について → 団体の入館申込み手順については、フローチャート式にして視覚的にわかりやすくなるよう努めています。また、申込みのネット対応についても検討していきたいと思えますが、団体体験の演目数や人数の調整、人員配置等もあり、現状では課題も多いです。いずれにしても利用者の立場からの申込み方法の改善に努めていきます。</p> <p>3. ④運営: 所見・指摘事項: 戸枝委員欄 ・アンケート学校用の設問Ⅰ-③利用できない理由はどのようなものか → 「利用していない」という回答項目なので「利用できない」理由についての特記はありませんでした。次年度以降把握に努めていきます。各学校の校外学習の場所の選定には、これまでの経緯や学校事情もあると思えますが、当館事業の魅力の周知と利用拡大については、なお一層の努力をしていきたいと思えます。</p> <p>4. 総合評価について ・研修会参加者名簿にも、既来館校、学年や来館回数を提示しながら、来館の少ない学校や利用していない学校へ働きかけていきたいと思えます。 ・房総のむらの学校団体利用の促進を図るための出前説明会については、これまで ①千葉県教育研究会や印旛地区教育研究会等の社会科教育部に外向いての説明・質疑 ②房総のむらを会場として実施された地域の教育研究会や総合的な学習部会の際における説明等を実施してきたところですが、今後は、利用の少ない地域を含め、学校教職員の研修の場などに積極的に外向くなどして、より実践的な形で房総のむらの利用を、継続的に働きかけ、房総のむらの利用促進に努めていきたいと考えています。</p>